

# お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド

※2025年8月1日付でファンドの名称を「お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド(円ヘッジあり)」から「お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド」に変更しました。

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第6期(決算日2025年9月10日)

作成対象期間(2024年9月11日～2025年9月10日)

### 第6期末(2025年9月10日)

基 準 価 額	12,216円
純 資 産 総 額	9,971百万円
第6期	
騰 落 率	△ 0.4%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 謄落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

○右記弊社ホームページの「ファンド情報」等から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド」は、このたび第6期の決算を行いました。当ファンドは、主として追加型証券投資信託「ファイデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、実質的に日本を含む世界の株価指数先物取引、債券先物取引、先物為替取引に係る権利への投資を行い、運用環境を問わない安定的な投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



東京都中央区新川1丁目17番21号

＜照会先＞

電話番号：03-6629-7090

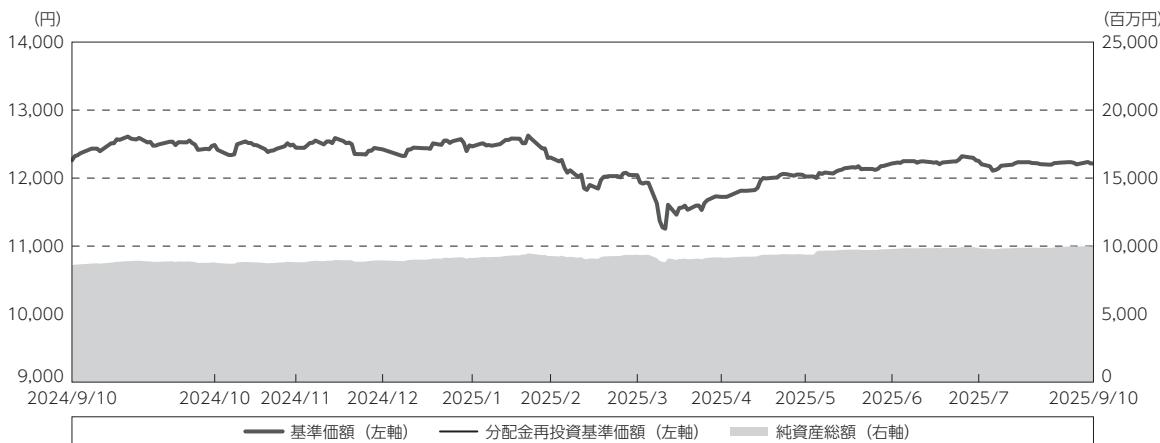
(受付時間：委託会社の営業日の9：30～17：00)

ホームページ：<https://www.money-design.com/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2024年9月11日～2025年9月10日)



期 首：12,261円

期 末：12,216円(既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 0.4% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首（2024年9月10日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指數がないため、ベンチマークならびに参考指數は表示しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンドは、当期（2024年9月11日～2025年9月10日）-0.4%のリターンとなりました。当ファンドではDBiリキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPYクラスAシェアーズ（以下「DBiポートフォリオ」）からフィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2（適格機関投資家専用）（以下「フィデリティ・ファンド」）へ2025年8月上旬に主要投資対象を変更しました。当ファンドに8月上旬まで組み入れていたDBiポートフォリオおよび8月上旬より組み入れを開始したフィデリティ・ファンドのパフォーマンスは若干のプラスとなったものの、運用報酬等がマイナスに寄与しました。

## 1万口当たりの費用明細

(2024年9月11日～2025年9月10日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 81	% 0.660	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投信会社 )	(74)	(0.605)	委託した資金の運用の対価
( 販売会社 )	( 4 )	(0.033)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受託会社 )	( 3 )	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他の費用	4	0.032	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監査費用 )	( 1 )	(0.012)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( その他の )	( 3 )	(0.021)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合計	85	0.692	
期中の平均基準価額は、12,268円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

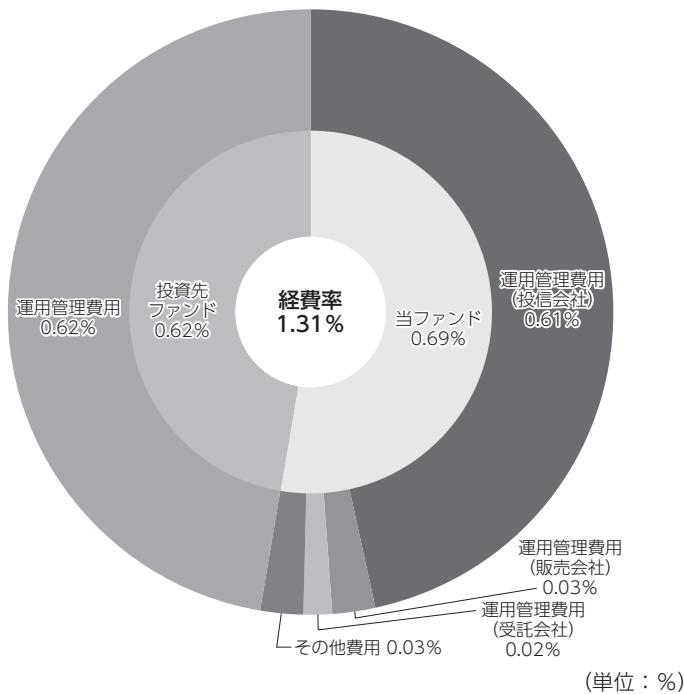
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしてあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.31%です。



経費率(①+②)	1.31
①当ファンドの費用の比率	0.69
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.62

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2020年9月10日～2025年9月10日)



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注）分配金再投資基準価額は、2020年9月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2020年9月10日 決算日	2021年9月10日 決算日	2022年9月12日 決算日	2023年9月11日 決算日	2024年9月10日 決算日	2025年9月10日 決算日
基準価額 (円)	10,337	12,015	13,068	12,323	12,261	12,216
期間分配金合計（税込み）(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	16.2	8.8	△ 5.7	△ 0.5	△ 0.4
純資産総額 (百万円)	3,408	6,392	8,335	6,685	8,591	9,971

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。ただし、単位未満の場合は小数で記載しております。

（注）騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

（注）当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

## 投資環境

(2024年9月11日～2025年9月10日)

当期は、高ボラティリティ、政治的混乱、そして急速な技術革新に特徴づけられました。第2次トランプ政権は、成長促進型の減税政策と破壊的な関税政策を交互に打ち出し、マクロ経済の動向を支配し続けました。「トランプ・トレード」が株価と米ドルを押し上げる局面もあれば、貿易戦争や資本逃避への懸念がセンチメントを圧迫する局面もありました。2025年4月の「米国解放の日」には、予想外に積極的な関税提案が提示され、近年で最大級の2日間の急落を引き起こしましたが、その後、急激な反発が続きました。

株式市場は乱高下しつつも底堅く、この期間の上昇を牽引したのは、米国テクノロジー株と、北米を除く先進国およびその他の海外市場でした。変動するインフレと財政赤字への懸念などを背景に金利が大きく変動しました。通貨、特に米ドル、円、ユーロは、度重なる反転を経験しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2024年9月11日～2025年9月10日)

当ファンドではDBiリキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPYクラスAシェアーズ（以下「DBiポートフォリオ」）からフィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2（適格機関投資家専用）（以下「フィデリティ・ファンド」）へ8月上旬に主要投資対象を変更しました。

DBiポートフォリオでは、リスクを最小限に抑えつつ長期的に安定した収益の確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。2025年8月5日までのDBiポートフォリオの戦略別米ドルベース・リターンの詳細は以下になります。

なお、DBiポートフォリオでは為替ヘッジを行っているため、米ドルベース・リターンに加えて、主に通貨間の金利差に起因するヘッジコスト／プレミアムが生じます。今期はこの要因がポートフォリオの最終的な日本円ベース・リターンにとってマイナスとなりました。

### ヘッジファンド・ポートフォリオ（DBiポートフォリオの約60%を構成）

ヘッジファンド・ポートフォリオのリターンはドルベースで約+8.4%となりました。

ヘッジファンド・ポートフォリオに使用されるレプリケーション・モデルは、株式ロング／ショート、レラティブ・バリュー、およびイベント・ドリブンの上位50の最大手ヘッジファンドから構成されるターゲット・ファンドを対象に、株式、金利、通貨市場全体でのこれらのファンドを利用し、コア・ファクターを抽出するように設計されています。

期初から2025年8月までに、株式エクスポートジャヤーはテクノロジー市場と新興国市場へとシフトし、これが2025年4月以降に大きなプラス寄与となりました。米国およびカナダを除く先進国株式市場は昨年第4四半期に苦戦しましたが、今年は大幅な上昇を見せ、全体としてはプラス要因となりました。また、長期国債における金利ポジションがプラス寄与となりました。米ドル指数のポジションはマイナス要因となりました。

### CTAポートフォリオ（DBiポートフォリオの約40%を構成）

CTA (Commodity Trading Advisor) ポートフォリオのリターンはドルベースで約-2.1%となりました。

CTAポートフォリオは上位20のマネージド・ファーチャーズ・ファンドを複製することにより、単一ファンドのテールリスクを軽減しつつ、ファクターのアロケーションによりリターンの獲得を目指します。

期初から2025年8月までは、急激な金融市場の動きと散発的なボラティリティの高まりが確認されました。このような市場環境は、従来のトレンド追随型モデルにとって逆風となったものの、CTAポートフォリオのような複製モデルの回復力を浮き彫りにしました。CTAポートフォリオは、期初「トランプ・トレード」の論調と歩調をあわせ、株式と米ドルのロング・ポジションから大きな収益を得ました。しかし、政策の優先事項が関税と保護主義へと移行し、2025年初頭には、ドルが予想外に下落、利回りが低下したため、金のロング・ポジションがプラス寄与となったものの、全体としては大幅なマイナスリターンを記録しました。

2025年4月の「米国解放の日」は、世界的な株式市場の暴落とドルの同時暴落という異例の事態を引き起こし、マネージド・ファーチャーズ市場を揺るがしました。多くのCTAがリスク回避と損失の解消に努める一方で、CTAポートフォリオもこの影響を受けましたが、システムатイックなポート

フォリオ運用と裁量的なリスク管理の排除に注力したこと、その後の市場の反発局面に参加できました。6月には原油のロング・ポジションや株式エクスポージャーが奏功し、ポートフォリオは良好なパフォーマンスを示しました。

## フィデリティ・ファンド

8月8日以降のフィデリティ・ファンドの円ベースのリターンの詳細は以下になります。

フィデリティ・ファンドは、複数のクオンツ・モデル（数学的手法やモデルを用いて、市場データを定量的に分析して運用を行うモデル）を活用し、システムティックな運用を効果的に行うことを目指します。ポートフォリオポジションの構築は、収益追求とリスク管理の両側面のバランスを重視してデザインされた定量的なロジックに基づき行われます。それにより、様々な角度からポジションの分散を図り、中長期的なリスク調整後リターンを高めることを目指して運用を行います。

フィデリティ・ファンドの円ベースのリターンは、米国を中心とした株式のロングが相場上昇によりプラス寄与したことが主な要因となり、約+0.4%となりました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2024年9月11日～2025年9月10日)

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指標は設定しておりません。

## 分配金

(2024年9月11日～2025年9月10日)

当期の分配金は、長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきました。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第6期	
	2024年9月11日～ 2025年9月10日	
当期分配金 (対基準価額比率)	—	—%
当期の収益	—	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	2,235	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

主要投資ファンドであるフィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2 (適格機関投資家専用) は、フィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界の株価指数先物取引、債券先物取引、先物為替取引に係る権利に投資を行なうとともに、株価指数先物取引、債券先物取引、先物為替取引を通じたレバレッジ取引を行ないます。複数のクオンツ・モデルを活用したシステムティックな運用を効果的に行ない、中長期的な資産の成長を目指します。

## お知らせ

### <約款変更>

- ・「投資信託および投資法人に関する法律」第14条の改正に伴い、投資信託約款の「運用報告書に記載すべき事項」の記載を「運用状況に係る情報」に変更する約款変更を行いました。(2025年4月1日)
- ・主要投資対象の変更およびそれによる運用の基本方針の変更等の理由から約款変更を行いました。(2025年8月1日)

当該約款変更の詳細は下記の通りです。

#### ①主要投資対象の変更およびそれによる運用の基本方針の変更

当ファンドの主要投資対象に追加型証券投資信託「フィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2 (適格機関投資家専用)」の受益証券を追加しました。

なお、当ファンドの主要投資対象であった外国投資法人「DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ」の外国投資証券には、2025年8月1日以降、新たな投資は行っておりません。

以上の主要投資対象の変更に整合するよう、運用の基本方針も変更しました。

#### ②当ファンドの名称の変更

上記①の変更に伴い、当ファンドにおける為替ヘッジの対応が変更となることから、当ファンドの名称から為替ヘッジに関する記載を削除し、下記の通りファンド名を変更しました。

旧ファンド名：お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド (円ヘッジあり)

新ファンド名：お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド

#### ③受益権の取得申込みおよび一部解約の実行の請求の受付を行わない日の変更

受益権の取得申込みおよび一部解約の実行の請求の受付を行わない日につき、現行の「ニューヨークにおける銀行の休業日」に、「ニューヨーク証券取引所の休業日」、「ロンドン証券取引所の休業日」および「ロンドンにおける銀行の休業日」を追加しました。

#### ④ファンド・オブ・ファンズに則した規定の整備

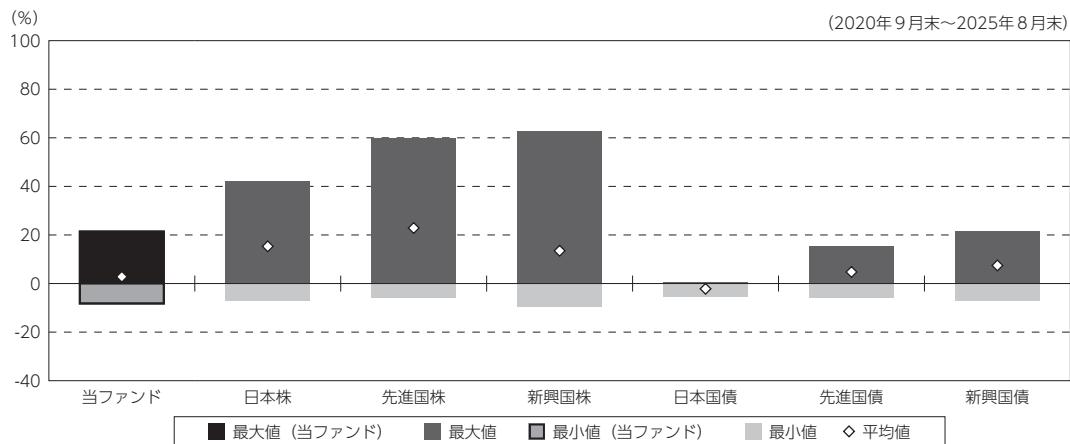
当ファンドはファンド・オブ・ファンズのため、それを明確化すべく、投資信託約款においてファンド・オブ・ファンズとしては不要な規定（主に投資制限や運用の指図範囲等（先物取引等の運用指図、スワップ取引の運用指図、金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図等を含む）における一部項目）を削除する等の規定の訂正を行いました。

## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	原則として、無期限です。（設定日：2020年6月19日）
運 用 方 針	主として追加型証券投資信託「フィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的に日本を含む世界の株価指数先物取引、債券先物取引、先物為替取引に係る権利への投資を行い、運用環境を問わない安定的な投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
主要投資対象	追加型証券投資信託「フィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2（適格機関投資家専用）」（運用：フィデリティ投信株式会社）の受益証券、ならびに国内上場投資信託「NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信」を主要投資対象とします。 ※なお、上記の主要投資対象ファンドに加え、ケイマン諸島籍の外国投資法人「DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ円建て投資信託証券」（運用：ダイナミック・ペーダ・インベストメンツ・エルエルシー）を主要投資対象ファンドとしておりますが、2025年8月1日以降当該外国投資証券に対する新たな投資は行っておりません。
運 用 方 法	主として日本を含む世界の株価指数先物取引、債券先物取引、先物為替取引に係る権利へ実質的に投資を行い、複数のクオンツ・モデル（数学的手法やモデルを用いて、市場データを定量的に分析して運用を行なうモデル）を活用し、主觀を排除したシステムティックな運用を効果的に行なうことを目指します。
収 益 分 配	毎年9月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.4	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値	△ 8.2	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 7.0
平均値	2.8	15.3	22.9	13.5	△ 2.2	4.8	7.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2020年9月から2025年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2021年6月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 各資産クラスの指標

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※詳細は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指標について」をご参照ください。

(注) 海外の指標は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2025年9月10日現在)

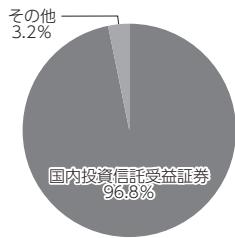
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第6期末
フィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2 (適格機関投資家専用)	96.8%
NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信	0.0
組入銘柄数	2銘柄

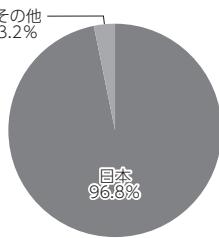
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

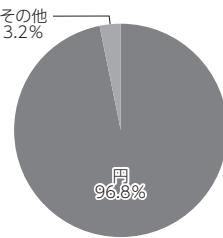
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券及び国内投資証券には外国籍（邦貨建）の証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第6期末
	2025年9月10日
純資産総額	9,971,020,798円
受益権総口数	8,162,573,671口
1万口当たり基準価額	12,216円

(注) 期中における追加設定元本額は1,856,903,610円、同解約元本額は701,764,958円です。

## 組入上位ファンドの概要

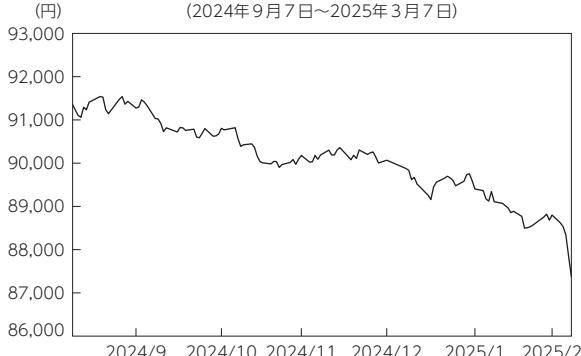
### フィデリティ・グローバルマクロ・マルチアセット・ファンド 2 (適格機関投資家専用)

当ファンドの第一回決算日が2026年7月21日のため、当運用報告書作成時点において、開示できる情報はございません。

## NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信

## 【基準価額の推移】

(2024年9月7日～2025年3月7日)



## 【100口当たりの費用明細】

(2024年9月7日～2025年3月7日)

当該期間の100口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

以下は「国内債券NOMURA-BPI 総合 マザーファンド」の決算日時点の内容です。

## 【組入上位10銘柄】

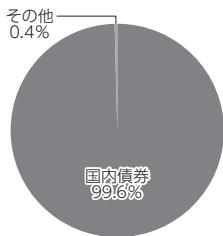
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率%
1	国庫債券 利付(2年)第452回	国債	円	日本	2.5
2	国庫債券 利付(2年)第453回	国債	円	日本	2.3
3	国庫債券 利付(2年)第455回	国債	円	日本	1.3
4	国庫債券 利付(10年)第370回	国債	円	日本	1.3
5	国庫債券 利付(5年)第163回	国債	円	日本	1.1
6	国庫債券 利付(5年)第162回	国債	円	日本	1.1
7	国庫債券 利付(10年)第360回	国債	円	日本	1.1
8	国庫債券 利付(10年)第372回	国債	円	日本	1.1
9	国庫債券 利付(5年)第157回	国債	円	日本	1.0
10	国庫債券 利付(10年)第369回	国債	円	日本	1.0
組入銘柄数		1,395銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

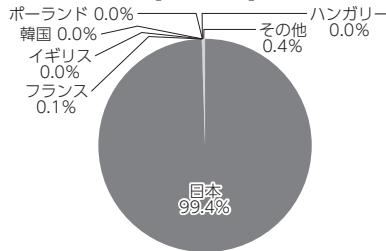
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

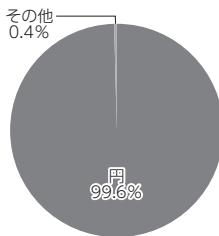
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

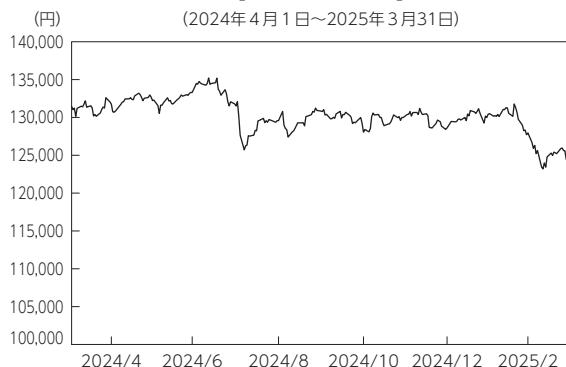
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## (ご参考) DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ

※DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズについては、2025年8月1日以降当該外国投資証券に対する新たな投資は行っておりませんが、本運用報告書作成対象期間中に組み入れのあったファンドのため、本参考情報を記載しております。

### 【基準価額の推移】



### 【1万口当たりの費用明細】

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

### 【組入上位10銘柄】

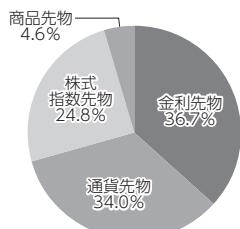
	銘柄名	比率
1	3 Months SOFR*	27.5%
2	Dollar Index	26.6%
3	E Mini MSCI EAFE	12.2%
4	EUR/USD CME	5.6%
5	US 10 Year Note	4.6%
6	E Mini MSCI EM	4.5%
7	Gold CMX	3.8%
8	E Mini Nasdaq	3.6%
9	2 Year Treasury Note	3.1%
10	Mini Mid Cap	1.9%
組入銘柄数		15銘柄

(注) 比率は、2025年3月31日時点のグロス・エクスポージャー合計額に対する個別銘柄のグロス・エクspoージャーの割合です。

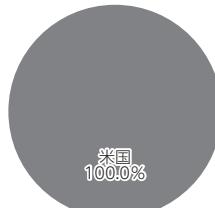
(注) 円クラスの為替ヘッジ分のエクspoージャーを除いています。

\*SOFR : Secured Overnight Financing Rate (担保付翌日物調達金利) の略称。米国の銀行間取引の指標となる金利で、ニューヨーク連邦準備銀行が2018年4月から公表を開始。金融機関同士で取引される米国債を担保にした翌日物のレポ金利をもとに算出。

### 【資産別配分】



### 【国別配分】



### 【通貨別配分】



(注) 比率は、2025年3月31日時点のグロス・エクspoージャー合計額に対する資産別先物のグロス・エクspoージャーの割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## ○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指標について

騰落率は、データソースが提供する各指標をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

### ○MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指標で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指標で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指標です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属します。

### ○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指標です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)  
JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指標です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。